

## 最近の道内経済動向

- 道内景気は、緩やかに持ち直している。
- 先行きは持ち直し基調が続くとみられるものの、物価高の影響が続くことで持ち直しのテンポは緩やかなまま推移すると予想している。

(注) 基調判断は2023. 11. 24時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(9~10月実績が中心)。

### ●個人消費は持ち直し基調にある

9月の供給側の統計(商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(前年比+3.8%)やコンビニエンスストア(同+6.6%)の販売額は増加が続いているほか、新車販売台数(軽含む乗用車、同+7.1%)も2ヵ月連続で増加した。需要側の統計では、家計の消費支出額(9月の家計調査を基に算定)が同+10.6%と2ヵ月ぶりに増加となった。総じて個人消費は物価上昇が足かせとなりつつも、持ち直し基調にあるとみている。

### ●観光は持ち直し基調にある

道内への外国人入国者数(10月)は10.2万人と、緩やかながら持ち直している。9月の来道者数(国内交通機関経由)は、127.0万人(前年比+20.7%)と2021年11月以降、前年比で増加が続いているものの、水準ではコロナ前(19年9月比▲5.4%)をやや下回った。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

### ●住宅建築は減少傾向にある、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は緩やかに持ち直している

新設住宅着工戸数(9月)は、前年比▲8.4%と3ヵ月連続で減少となった。主要な利用関係別にみると貸家(同+1.3%)が増加した一方、持家(同▲22.1%)、分譲住宅(同▲13.7%)が減少。分譲住宅は、マンション(同+84.4%)が増加したものの、戸建て(同▲30.2%)は減少した。日本銀行札幌支店が10月2日に公表した企業短期経済観測調査(北海道)の設備投資計画[ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額(除く土地投資額)]では、23年度の全産業は前年比+2.0%、製造業は同+23.8%、非製造業は同▲7.3%となった。公共工事出来高(9月)は1,961.3億円(前年比+10.1%)と9ヵ月連続で増加した。公共工事請負金額(10月)は、388.9億円(同+5.5%)と3ヵ月連続で増加した。

### ●生産は悪化の兆しがみられる

鉱工業生産(9月)は、前月比▲1.3%と2ヵ月ぶりの低下となった。鉄鋼(同+5.6%)などが上昇した一方、金属製品(同▲21.4%)などが低下した。9月の生産は、前月に受注が重なった影響の反動などが全体を押し下げた。

### ●輸出は悪化傾向にある

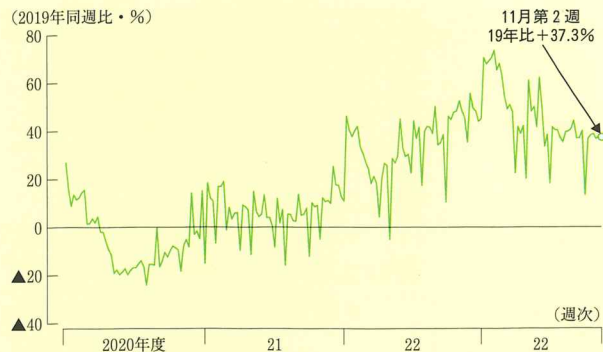
10月の通関輸出額(速報値)は、343.7億円(前年比▲11.3%)と4ヵ月連続で減少した。品目別では、「鉄鋼くず」(同+17.6%)が増加した一方、「魚介類・同調製品」(同▲71.0%)は中国向けが全減となったことを受けて大幅減少となった。

### ●雇用情勢は緩やかに持ち直している

9月の有効求人倍率(パート含む常用)は、1.01倍(前年差▲0.15ポイント)となった。有効求人数は、コロナ対応の求人剥落といった特殊要因が押し下げている反面、有効求人数は1倍を維持した。有効求職者数(パート含む常用)は84,368人(前年比+2.0%)と3ヵ月連続で増加した。

### 求人情報サイトに掲載されている道内求人情報数の推移

求人情報サイトに掲載されている道内求人情報数は、2019年同週比を上回って推移。深刻化する人手不足や求職活動の多様化などを背景に、求人情報数は強含んでいる。



(注) 2019年12月4週、20年1月1週は、一部収集元サイトのメンテナンスにより、約100万件のデータが取得不可(欠損)。そのため、欠損しているデータの一部は、前週の値を用いて補填を行っている。22年5月1週も取得不可(欠損)となっている。  
(出所) 内閣府「V-RESAS」、㈱フロッグ「HRog リスト for アカデミア」(23年11月30日データ取得)